# 農業版ＢＣＰ（事業継続計画）　（記入例）

山田農園は、自然災害や事故が起きたときに何を優先して守り、どうやって経営を再開するかを、この計画に定める。

## 1　基本方針

災害のときは、次の方針で行動する。

1　人の命と安全を最優先にする。

2　ハウスのトマトを守り、取引先への出荷をできるだけ早く再開する。

3　パート従業員の仕事と給与を続ける。

## 2　想定する災害

市町村のハザードマップと、これまでに地域で起きた被害をもとに、台風・大雨による浸水（ハザードマップで浸水0.5〜3mの区域）、大雪、長時間の停電を想定する。

## 3　最優先で再開する業務と目標の時期

災害のときは、ハウスの温度・かん水の管理と、収穫・出荷を最優先で再開する。再開の目標は発生から3日以内とする。

## 4　ライフライン・施設が使えないときの代わりの手段

- 停電したときは、暖房機とかん水ポンプが止まる。倉庫に保管している発電機（燃料20Lを備蓄）で動かす。
- 水が止まったときは、井戸のポンプが止まる。貯水タンク（2t）の水でかん水する。
- 電話・ネットが使えないときは、取引先・JAと連絡が取れなくなる。家族のスマホのLINEを使い、JA支所へ直接行く。
- 道路が使えないときは、集荷場への道が冠水する。別ルートを地図に書いておき、JAと出荷方法を相談しておく。
- ハウス・圃場・畜舎が傷んだときは、被覆フィルムが破れる。予備のフィルムとハウスバンドを常備し、施工業者の連絡先を控えておく。

## 5　人・物・お金・情報の備え

- 人（安否確認・避難・欠員）　安否確認は家族・従業員のLINEグループで行い、避難場所は〇〇公民館とする。人手が足りないときは近所の農家と応援し合う。

・ 物（機械・資材・飼料）　種苗・肥料・農薬は1作分の予備を置く。機械が使えないときはJAのレンタルを使う。

・ お金（手元資金・保険）　手元資金は経費2か月分を目安に確保する。収入保険と園芸施設共済に加入している。

・ 情報（記録・連絡先）　緊急連絡先の一覧を紙とスマホの両方に控える。帳簿と栽培記録のデータは別の場所にも保存する。

**6　緊急時の体制と初動**

災害のときの責任者は山田 太郎とし、責任者が不在のときは山田 花子が判断する。

発生から24時間の初動は、次の順に行う。人の安否を確かめ、ハウス・機械・作物の被害を確かめて片付けの前に写真を撮る。次に農業共済・市町村へ連絡し、取引先へ状況を知らせる。

出勤と帰宅は、次のとおりとする。警報が出ているときは出勤しない。作業中に避難指示が出たら、作業を止めて避難する。

**7　備蓄**

飲料水・食料（3日分）、救急箱、懐中電灯、ヘルメット、発電機の燃料を備蓄する。

**8　見直しと訓練**

毎年、梅雨の前に家族・従業員と読み合わせ、リスクチェックリストをやり直す。災害のあとにも見直す。

この計画は2026年5月25日に家族・従業員と共有した。次の見直しは2027年5月に行う。

2026年5月20日

経営体名 山田農園

責任者 山田 太郎

**自然災害などのリスクチェックリスト**

確認した日 2026年5月20日　確認した人 山田 太郎

| 区分 | 確認すること | はい | いいえ | いいえのときの対応と期限 |
|---|---|---|---|---|
| リスクを知る | 自分の圃場・ハウス・畜舎・倉庫の場所を、ハザードマップ（浸水・土砂災害）で確かめた | ○ | | |
| リスクを知る | 過去に自分の地域で起きた災害（大雨・台風・大雪・地震）と、そのときの被害を知っている | ○ | | |
| 平時の備え | 気象・防災情報を受け取る方法（防災アプリ・市町村のメールなど）を決めている | ○ | | |
| 平時の備え | ハウス・畜舎・乾燥施設などの傷みを点検し、補修している | | ○ | 6月末までに点検・補修 |
| 平時の備え | 排水路・明きょを点検し、ごみや土砂を取り除いている | ○ | | |
| 平時の備え | 停電に備えて発電機などの非常用電源と燃料を用意し、動くか確かめている | ○ | | |
| 平時の備え | 機械を浸水から避難させる場所（高台・屋内）を決めている | | ○ | 6月中に置き場所を相談 |
| 保険・資金 | 収入保険や農業共済（作物・園芸施設・家畜）の補償内容を知り、加入している | ○ | | |
| 保険・資金 | 建物・機械・保管中の農産物の保険（共済・民間）の補償内容を知っている | | ○ | 7月までに補償内容を確認 |
| 保険・資金 | 復旧までの運転資金（手元資金・融資の相談先）を考えている | ○ | | |
| 直前の備え | 飛ばされそうなコンテナ・資材を片付け、燃料タンクやボンベを固定した | | | |
| 直前の備え | 収穫できるものを早めに収穫し、収穫物を安全な場所に移した | | | |
| 直前の備え（施設） | 被覆材の破れ・緩み、留め具のさびを点検し、応急の補強をした | | | |
| 直前の備え（施設） | 耐えられない強風が予想されるとき、被覆フィルムを切って取り除く前に農業共済に連絡する手順を確かめた | | | |
| 直前の備え（畜産） | 停電・断水のときの給水・換気・搾乳の方法と、飼料の在庫を確かめた | | | |
| 事業を続ける | 災害のときに最優先で再開する業務と、再開の目標時期を決めている | ○ | | |

| 区分 | 確認すること | はい | いいえ | いいえのときの対応と期限 |
|---|---|---|---|---|
| 事業を続ける | 家族・従業員の安否確認の方法と避難場所を決め、共有している | ○ | | |
| 事業を続ける | 人手が足りないときに応援を頼める人（近所の農家・JAなど）がいる | ○ | | |
| 事業を続ける | 資材・飼料・燃料が手に入らないときの代わりの手段を考えている | ○ | | |
| 事業を続ける | 取引先・関係機関の連絡先を、紙とスマホの両方に控えている | ○ | | |
| 事業を続ける | 被害を写真と記録で残す手順（片付けの前に撮る）を決めている | ○ | | |
| 事業を続ける | 責任者が不在のときに代わりに判断する人を決めている | ○ | | |

「いいえ」の項目は、いつまでに何をするかを右の欄に書き、この計画の該当する項目に反映する。

**災害時の緊急連絡先**

更新した日 2026年5月20日

| 連絡先 | 担当者・部署 | 電話 | つながらないときの連絡方法 | 番号（証券・契約・組合員番号など） |
|---|---|---|---|---|
| 家族・従業員 | 山田 花子（妻） | 090-0000-0000 | 家族・従業員のLINEグループ | — |
| 市町村（農政・防災の担当） | ○○市 農政課 | 000-000-0000 | 市役所の窓口へ直接行く | — |
| 農業共済組合（NOSAI） | ○○支所 損害評価係 | 000-000-0000 | 支所の窓口へ直接行く | 園芸施設共済 No.○○○ |
| JA（営農・出荷・購買） | ○○支所 営農指導 | 000-000-0000 | JA支所へ直接行く | 組合員番号 ○○○ |
| 取引先 | ○○青果 仕入担当 | 000-000-0000 | メール | 取引先コード ○○○ |
| 電力会社・燃料の配達 | ○○電力／○○燃料店 | 0120-000-000 | 停電情報のアプリ | お客さま番号 ○○○ |
| ハウス・施設の施工業者 | ○○ハウス工業 | 000-000-0000 | 担当者の携帯 090-0000-0000 | — |
| 農機の販売店・修理 | ○○農機 サービス係 | 000-000-0000 | JAの農機レンタル窓口 | — |
| 金融機関（日本政策金融公庫・JAなど） | 日本政策金融公庫 ○○支店 | 000-000-0000 | JA支所の窓口で相談 | — |
| 保険会社（建物・機械・車両） | ○○損保 事故受付 | 0120-000-000 | アプリで事故の連絡 | 証券番号 ○○○ |
| 近所の協力農家 | 佐藤 次郎 | 090-0000-0000 | 直接訪ねる | — |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

**見直しの記録**

| 見直した日 | きっかけ（定期・災害のあと など） | 変えたところ | 共有した人 |
|---|---|---|---|
| | | | |

| 見直した日 | きっかけ（定期・災害のあと など） | 変えたところ | 共有した人 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |